



コミュタン福島における取組

福島県環境創造センター総務企画部

福島県環境創造センター交流棟「コミュタン福島」は、放射線に関する正確な理解を促進し、また、原子力災害を経験した福島県の現状を伝えることを目的とした展示室等を備えた施設として、2016年7月21日にオープンした。

放射線や原子力災害を受けた福島県の状況についての理解不足に起因する風評や不当な差別など福島県で生まれ育つ子どもたちが今後も背負う問題を解決するためには、放射線や福島県の状況を子どもたち自身がきちんと理解し、自らの言葉で伝えることが必要のため、「コミュタン福島」では体験型の展示やスタッフと対話を通して、それらを主体的に学べる施設である。

放射線や福島県の状況について、子どもたちが主体的に学べる施設 **コミュタン福島**



コミュタン福島 外観



原子力災害について学ぶエリア



放射線について学ぶエリア



ドームシアター外観(左上)

子どもたちをターゲットにしたコミュタン福島における学習

子どもたちが主体的に学べるように、

- ・ **体験型の展示**で、子どもたちの興味を喚起
- ・ **対話を重視**したハードとソフトで、コミュニケーション促進

展示での学習内容

- ・ 原子力災害、放射線の基礎知識
- ・ 様々な再生可能エネルギーの特徴
- ・ SDGsの概要と各ゴールに関連した展示

実験講座の内容

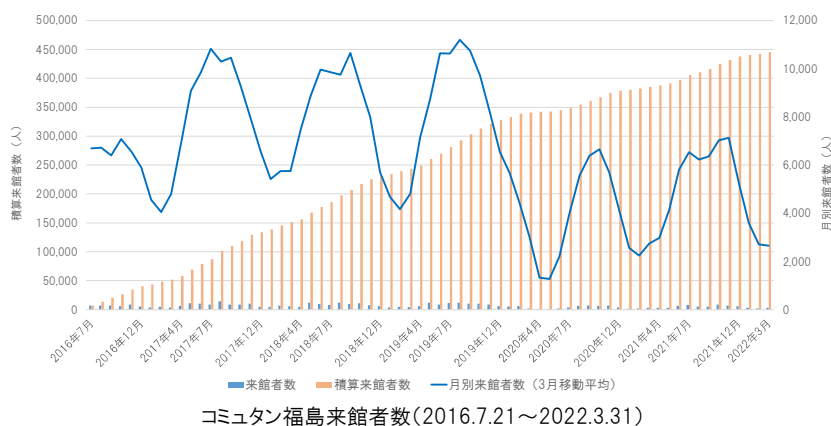
- ・ 身の回りの放射線の測定
- ・ 霧箱で放射線の性質の観察
- ・ 再生可能エネルギーによる発電体験



コミュタン福島 来館者数等

2016年7月21日にオープン後、2017年度～2019年度は毎年9万人を超える来館者を迎えており、目標である年間総来館数の8万人を達成している。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により来館者は44,260人と減少した。2021年度は60,631人（オンライン利用も含む）と前年度に比べ増加傾向にあり、7月11日には、総来館者が40万人に達したものの、コロナ禍以前の来館者数までには至らない。

また、2021年度の福島県内小学校の利用割合は約52.7%（231校が来館）となる。引率教諭からは、「東日本大震災の記憶がない子ども達にもわかりやすい内容だった。放射線についても楽しく学べた」、「震災時の記憶がない児童がほとんどで、福島で何が起こり、どう立ち向かって行ったかを伝える必要があると思う。」、「ごみの量や平均気温の上昇など、地球温暖化に関わる展示を見て、環境問題についての意識を高めることができました。」との感想を頂いている。



コミュタン福島 展示更新イメージ

コミュタン福島 展示更新

コミュタン福島で福島県の環境回復と創造に向け、来館者一人ひとりが展示物を見て体験することにより、現在の環境問題に対して「自分でできることは何か」をそれぞれの立場から考え、「自分事化」する視点を育むとともに、日常生活の中で自らの行動に反映するきっかけとなるよう、環境を巡る社会情勢の変化を踏まえるとともに、震災の記録・記憶の継承や復興の意識醸成に向けた未来像の発信及び環境創造センターの取組成果の発信強化のため、展示内容を更新します。

- 令和4年11月中旬～ **展示更新工事**
※ 展示更新工事期間中は、展示室のみ閉館します。

- 令和5年3月中旬 **リニューアルオープン (予定)**



新規展示(マッピングふくしま、未来創造インフォストリーム(仮称))のイメージ